

(3) グリーンインフラ展示の具体イメージ

- 会場内に実装するグリーンインフラについて、来場者が興味・関心を持ちながら学び、体験し、自分ごととして捉えることができるよう、体験型のグリーンインフラ展示を行う。
- ハード・ソフト両面で体験ができるよう展示設備、コンテンツを整備する。

【地下水流動の可視化】

- 地上の様子（模型、航空写真等）に地下水の流れを投影。
- AR/VR等を活用して自身が立っている場所の地下水流を体験・体感する。



【地表水と地下水の可視化・体験イメージ】

【生物多様性ワークショップ】

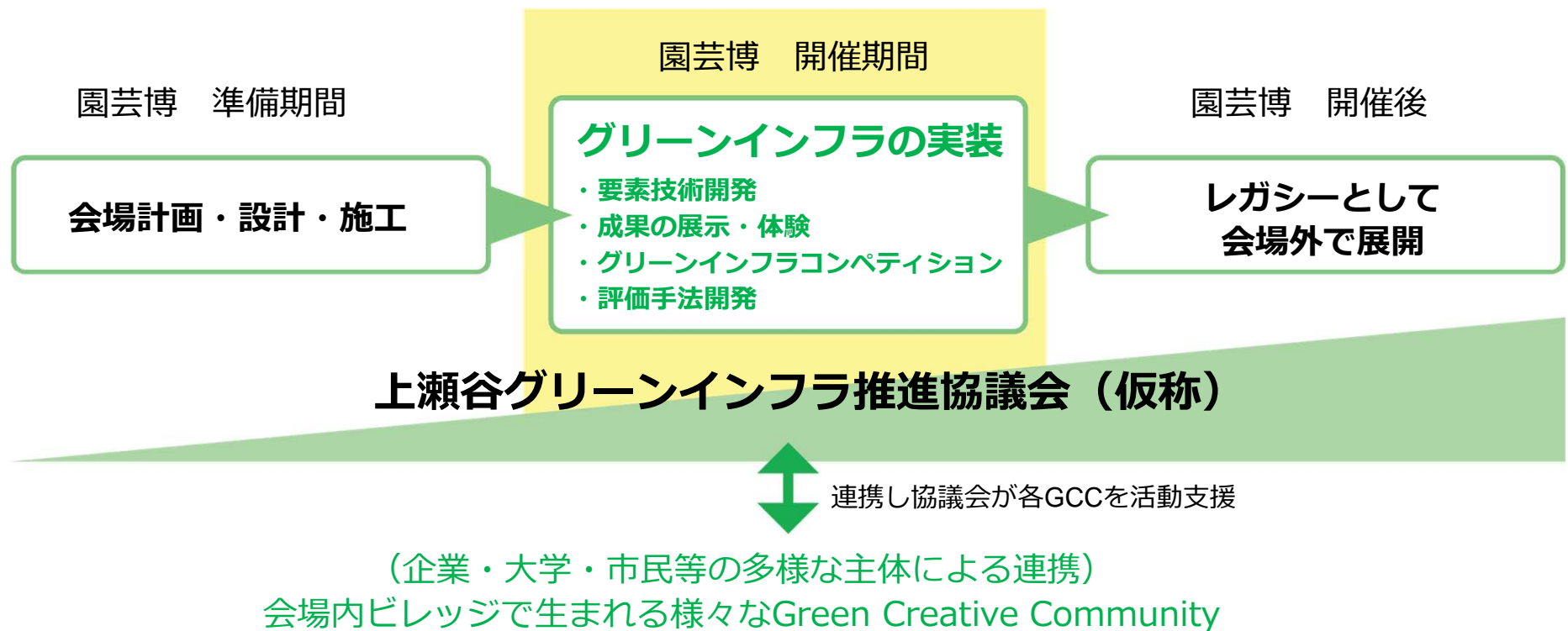
- 上瀬谷の多様な生物、林、森の植物、農環境を体験できるワークショップの実施。
- 微生物や菌類等、目に見えない生物を学び、体験できる施設の展開。



【生物多様性ワークショップイメージ】

(4) 本博覧会を契機としたグリーンインフラの展開の考え方

- 博覧会で実装したグリーンインフラは、一過性ではなく、博覧会を契機として広域普及、技術進化、発展等を期するものであり、実効性のある展開には、それを支える推進体制や関係者の意識変革が必要。
- そのためには、開催前から推進組織を設置し、博覧会開催を国際的な実験場とし成果展示の場として位置づけ、開催後はレガシーとして継承し、広域普及を目指す。



- 都市公園施設として整備される「屋内展示施設」において、当協議会の活動を継承発展
- 博覧会レガシーとして、まちづくりにおけるグリーンインフラ実装に関する活動支援、情報発信の拠点として機能

(1) 動線計画の考え方

- 動線は、ICT等の先端技術等を活用し、**安全性、快適性、移動負担の軽減などの機能**を持たせる。
- 展示された**花や緑を愛でながら移動自体が楽しみになるような計画**とする。
- 会場内の動線は、その**用途別に、来場者用動線、管理用動線、緊急用動線、VIP用動線に分けて整理**する。



(2) 来場者動線

- 来場者動線は、「歩行者動線」（「主動線」と「副動線」）、「パーソナルモビリティ」、「大量輸送の電動トラム等」により構成。
- 平坦路とスロープにより構成し、移動手段として歩行の他に複数のモビリティの導入により容易に移動可能なものとする。また、電動カートやベビーカー・車椅子の利用者への配慮や景観保全を踏まえた通路幅とする。



<幅員の算定>

- 主動線は、歩行者動線、緑地、溜まり、パーソナルモビリティ動線が複合したものとし、会場内の中心に通景軸として計画し、移動自体が楽しみとなる景観演出と、想定来場者数を踏まえた混雑時においても快適且つ安全に移動できる幅員として30mに設定する。
- 副動線については、サービス水準の確保や自然や建築を楽しむヒューマンスケールな散策路の役割を満たすために幅員は6mとする。

<Villageへのアクセス>

- Villageには副園路よりアクセスする。
- 主動線とVillageには植栽や花壇等の演出により主動線から引きをとり、Village内のテーマ性が主動線より垣間見ることが出来る配置とする。

